

第3回

宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録（概要）

日時：平成27年10月6日（火）午後2時30分～

場所：宇城市役所2階庁議室

1 開会

2 議事

（1）前回の振り返り

（2）総合戦略骨子案「しごと」について

「第3回宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議事前検討依頼事項」についての意見交換

3 その他

次回有識者会議：総合戦略骨子案「ひと」、「まち」について

4 閉会

【配布資料】

（事前送付資料）

・「第3回宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議事前検討依頼事項」

（当日配布資料）

・各委員からの具体的施策の提案書

【第4回会議】平成27年11月 6日（金）午後2：00～ 庁議室

【第5回会議】平成27年11月30日（月）午後2：00～ 庁議室

1 開会

(事務局)

2 議事

(1) 前回の振り返り

(事務局報告)

(2) 総合戦略骨子案「しごと」について

(事務局)

- ・2060年の人口推計について。現役世代が今の半数以下になる。
- ・宇城市は若い世代が仕事の関係などで流出が非常に激しい。
これを食い止めるに仕事分野をどう作っていくか、重点的に考えていきたい。
- ・地元の企業を強くすることが一番の主旨。
- ・行政も各企業も努力をしてない訳ではないが、今のままの取組みでは2060年の市の人口は3万5千人を下回ってしまう。

(RESAS 資料説明)

- ・宇城市内のコネクタースタートアップ企業の中で仕入れを地場の企業からしているところがほとんどない。これが宇城市の産業構造。
- ・今までの努力では改善できないくらいに人口減少のスピードが速い。日本全体でそうなっている。どのようにすれば宇城市内の各企業の付加価値を上げられるのかを施策・立案して皆さまからヒントとなる情報やご意見をいただきたい。

「第3回宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議事前検討依頼事項」

についての意見交換

(会長)

- ・モノの流れがカネの流れになっている。
従来の行政の施策、民間の対応では人口増えない。現状を踏まえ、行政の対応、民間の対応をどうしていくか、意見を賜りたい。

① 【地場企業の振興】(事前検討依頼事項資料6頁)について

金融機関から見た宇城市内の中核産業、今後の伸びが期待される産業は何か？

(委員)

- ・GDPの伸び
→農業、卸売、不動産、サービス（医療関係含む）の4つが伸びている。
- ・貸出の伸び
→農業、不動産、サービス（医療関係含む）の3つが伸びている。
農業の伸びは今後期待が大きい。
(理由) 一般金融機関が農業向けに融資している事があまり知られていない。金融機関の

PR がまだ足りない。

- ・デバイス関係が伸びている。

宇城市では流通、介護関係の借入が増えている。

農業はファンドを作成し活動しているがまだ浸透しておらず、今後はいろいろな PR をしていく考え。

中核産業に関しては電子、食品、輸送、製造業などが今後期待大きい。

(会長)

- ・これまでも農業に貸し出しは可能だったのか？

(委員)

- ・県の方から農業に強い人材を 2 人出向してもらっている。

本部に農業専門部隊もある。農業向けファンドも作成している。(法人・個人両方)

(会長)

- ・JA だけでなく、一般金融機関も農家個人へ融資をしているとのこと。

では、産業界からは何かこの件についてありますか。

宇城市において、今後こういった伸びがあるかなど。

(委員)

・どういうものが良いか悪いか、この地域に合っているのかと言われても何とも言い難い。地元で調達出来るのは限られており、一次産業では農産物、漁業、それから人材しかない。水も多くはないので、産業において近隣との連携については何とも答えづらい。

(会長)

・宇城市でこの分野は安定的で今後も続いていくであろうという分野を強化するのも一つの道。

2060 年へ向けて持続可能な宇城市を創っていかなければならない。

民間も計画的にやっていくというのがあるかどうか。

(委員)

- ・金融機関が農業の個人事業主に貸出していると知ってうれしく思う。

(会長)

- ・県がブライト企業の認定制度を始める。宇城市内の民間企業も認定されるとよい。
- ・金融機関から融資において困った点・活用したい点などは？

(委員)

・連携の話で、例えば製造業が宇城市に外注を出しているかということ、ほとんど無い。宇城市内に外注先がないのか、宇城市内にあるけど宇城市外に外注するのか。宇城市に落ちるシステムが出来ないかと感じている。

・連携について八代はやっている。宇城市は熊本市内へも通勤圏内である。立地や人材をアピールしていけば良いのでは。

(会長)

・(仕入れが) 宇城市内に無いから宇城市外なのか、これまでの流れで宇城市外なのか。把握が必要。あるとすれば潜在的可能性がある。

他に「事前検討事項第6頁」について何か。

(委員)

・リーディング企業の育成支援は県経済を牽引する高い付加価値を創出。

サブリーディング育成企業→リーディング育成企業→リーディング企業
と段階を踏んでいく。

現在、リーディング育成企業37社、サブリーディング育成企業13社。

今から伸びて行く企業を県が補助金を使いながら育てる。

宇城市の企業はサブリーディング育成企業に理化電子(株)、(株)ビッグバイオの2社が入っている。

男女共同参画では宇城総合病院、イオンモール宇城など、手を挙げていただいた。ブライト企業はさらに広げたところで募集していく。ブライト企業県一位を目指してみてもどうか。

(会長)

・県も認定している制度なので、ぜひ活用してほしい。

(ブライト企業などが) 何も無いよりある方がいい。企業はどんどん手を挙げていただきたい。

(委員)

・商工会として、販路の開拓については取組んでいる。

仕入れについては取組んだ事がないのが現状。

(原材料や仕入れに関する調査について)

商工会法で商工会が動いており、企業の仕入れ調査ができるか確認が必要。

(会長)

・情報がわからない。情報の偏在。地域企業が新たな取り組みで、宇城市内である程度まわしていける枠組み作りが必要。

(委員)

・仕入れなどの調査を企業同士でするのは難しい。

→ 宇城市がやったらどうか

各企業、ある程度秘密保持が出来る前提で相談できればありがたい。

(会長)

・情報を各企業から行政に挙げてもらい、行政がデータベースで管理する。

データベースを更新する等して、企業が行政に聞きに来たら、情報を渡すようにすると効率的に情報を貰えて企業は都合が良い。

② 【販路拡大策】(事前検討依頼事項資料7頁) について

(事務局)

商工会、農業などで販路を作れたときに別の業態からお互い紹介し相談できる土壌はあるの

か？

(委員)

・企業側がきちっとしたところに相談をすれば、販路のノウハウを持っているところはたくさんある。商工会でも持っているし、金融機関では企業を集めた取引の仲介をしている。どこかと接点を持っていれば次々と繋がる。全くのゼロから東京へ販路をとというのは無理がある。

(事務局)

・そういった販路の情報は吸い上げられるものなのか？

行政にも相談はあるが、販路をどうしていいかわからない。

(委員)

・販路は県に相談するのが一番いい。県内であれば商工会でもいいが、県外の市場を目指すなら、県に相談する方がいい。

販売に関してはシステムとして手段はあるし補助金もある。しかし仕入れ先は内緒にしたい部分もあり、仕入れに関してはデリケートな部分がある。市を間に挟むと、私達も情報を提供しやすい。

・JA と商工会の繋がりが薄い。こういった機会に JA、商工会、金融機関と連絡を取り合うのがよい。

(会長)

・常設の店舗を持っている市町村があるので、情報として得て、予算を試算してみて常設の販路を作るのも 1 つある。

販路の情報としては異業種からも得られるし県からも得られる。色々なルートがある事を市内の業者に知ってもらう事が必要。

(事務局)

・マーケティングや相談窓口が見えないところがある。

地元の個人企業の販路相談先。金融機関がいいのか、県がいいのか、どこだと売れるのか悩まれる。

(会長)

・バイヤーに相談するのが一番。バイヤーは売る商品を出す。バイヤーが売れる知恵をくれる。

(事務局)

・商談会などで宇城市内の企業はどれくらい参加しているか？

(委員)

・年 2 回、大手スーパーをよんで食の商談会等をしているが、宇城市内の企業が多いとは感ない。

10 月に県南（宇城、八代、天草、人吉）八代支店で、生産者と熊本のホテル関係者を呼んで商談会を開催する。宇城地区からは 10 社位を予定している。

- ・市外に向けての販路拡大と市内に向けての販路拡大、2通りあると思う。

宇城市の発信をする場にもっと多くの人に参加してほしい。

宇城市で作ったものを生産して東京で売る→そのことによって宇城市にお金を落としてもらう仕組み作りが必要。

(会長)

- ・ネットワークを使って情報を得るのは必要。

(7頁1番下記載) 高校生が卒業して県外に出ても連絡が取り合えるという枠組み。それを仕事で使えるような枠組み作りをする。

(委員)

- ・今は個人情報に関して難しい状況。同窓会名簿が一番大きなデータベース。

(会長)

- ・学生はSNS等で情報交換をして、集まっている。

ブライツ企業、雇用、今回の総合戦略は地元での雇用も1つのポイント。

③ 【魅力的な雇用】(事前検討依頼事項資料9頁) について

(会長)

- ・3点挙げてあるが、雇用についてご意見、考えはあるか？

(委員)

- ・景気が良くなると人が欲しくなるが、景気が悪いと欲しくても取れない。

県外からも募集が来ていて、たくさん県外に取られている。

雇用条件としては地元では給料は安くても、生活はできる。

保護者や学校の先生方にはどのような企業なのかを勉強していただきたい。

・高卒の状況について。景気の回復を受けて求人は良い。宇城管内からは高卒就職が200人前後。最近の特徴は、管内就職が落ちている。最近5年間で見れば、25%。

管内に留まる人たちが少なくなっている。それだけ管内求人の魅力が足りないのではないかな。宇城では求人は多いが充足率は低い。

〈原因〉

- ・求人の質。
- ・正社員求人が4割。ほとんどが非正規社員。
- ・正社員の中でもボーナスが出る求人が少ない。
- ・賃金もすべての産業で落ちる。

〈改善の為には〉

- ・求人の魅力、求人条件の改善が必要。

(会長)

- ・パートでしか働けない人もいる(子育て中など)。

採用する側、教育する側、できるだけ宇城市内でよりよい雇用条件を作れるような状況をつ

くる必要がある。

④ 【個人事業主の競争力強化】（事前検討依頼事項資料 10 頁）について

（会長）

- ・来週から始まる県のブライト企業は個人・法人問わず応募できる。

競争力強化について金融機関の方で事例があれば紹介願いたい。

（委員）

- ・後継者が一番の問題。今、創業している方がどう考えているのかが 1 番。金融機関がどういう風にお手伝いできるのか。

- ・後継者について、紹介や事業所のアドバイス等も行っている。相談があれば随時対応している。

（会長）

- ・製造業で後継者がいない場合は合併したり、他の企業からリタイアした経験者を社長として後継者にする。

事業主がどう考えているかがまず 1 番。農家の後継者問題が一番シビア。

儲かっている農家であれば、金融機関が入り、数値を見てまだ継続出来るとなれば後継者も探せる。

農家も製造業も含めた個人事業者が当事者の考えに基づいて金融機関から適切なアドバイスをもらう。商工会、企業クラブは個人事業主に対して何かあるか？

（委員）

- ・商工会は個人事業主が非常に多い。勉強会のプログラムはたくさんある。

（後継者について）

- ・宇城市商工会の青年部の状況をみると、サービス業が多い（飲食・板金など）小売りは少なくなっている。

（会長）

- ・個人事業主で一步前へ踏み出したいという方はさまざまな物産展やセミナーに参加するなどして情報を得る。

情報というのは足を運ぶなり、ウェブでチェックするなど能動的に動いて自分から取りに行かなければ入ってこない。

必要な情報については、ここが持っているという事を定期的にアドバイスし、それを利用できればいい。

⑤ 【創業支援策】（事前検討依頼事項資料 12 頁）について

（事前検討依頼事項資料 11 頁を踏まえて）

（会長）

- ・創業支援についてご意見、お考えをお願いします。

（委員）

- ・創業支援についてはたくさんの相談があっている。

事業の継続が6カ月以上にならないと、商工業者としての認定はできない。

創業からお手伝いした会員は相談があれば事業の見直しや、資金繰りの指導はする。

(会長)

- ・金融機関による起業支援でその後順調である事例などはあるか？

(委員)

- ・女性進出の中で、女性のセミナー等開催し、手伝いをしている。

- ・提案ですが、宇城市で創業支援の制度融資など出来ないか。

お客様が起業化のために、制度融資を借りられ、その利息の半分は行政が負担するという、利子補給制度みたいなものがないか。

(事務局)

- ・逆に、行政と金融機関が共同出資してファンドを作り、経営は金融機関が審査し、基金部分は連携して運用を図る仕組みはできるか？

(委員)

- ・できると思う。

(会長)

- ・起業化については行政側から知恵を出すというのはほぼ不可能に近い。商工会などがノウハウを持ってやっていただきたい。

起業して数ヵ月がカギ。この時期にあらゆるサポートができるようにするといいのでは。

ファンドの件は、制度ができるのであれば、検討の余地があるのでは。

(委員)

(ファンドについて)

- ・市商工会の制度として、利子補給はある。

条件を変えれば出来ない話しではないと思う。

(会長)

資料13頁、14頁が残っているが、時間が来たので次回冒頭に繰越。

3 その他

(事務局)

- ・次回、本日の残りの農業分野を検討し、“人とまち”について、協議していただきたい。